

葦穂小学校・吉生小学校・柿岡小学校 統合再編に係る地区住民説明会 要旨

日時 令和3年11月2日（火） 午後7時から午後8時5分

場所 中央公民館 2階

執行部 児島教育長，豊崎部長，吉澤次長，朝賀参事，須加野指導室長，
小河原副参事，雨貝課長補佐，佐藤主幹

出席者 5名

次第

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 職員紹介
4. 統合再編計画に係る説明

資料

- ・石岡市立小中学校統合再編計画
- ・小中学校年度別将来推計（別紙）
- ・石岡市学校施設個別施設計画
- ・公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き
- ・石岡市公共施設等総合管理計画概要版

質疑応答

5. その他
6. 閉会

次第に沿って、4. 統合再編計画に係る説明まで行う

(参加者)

統合について具体的に決定しているということなのか。

(事務局)

統合再編については、保護者や地域の方々のご理解とご協力がなければ進めていけないと考えます。計画はございますが、今後各校の保護者や地域の代表の方々に組織する統合検討委員会を立ち上げ、その中で最終的な決定をしていただきたいと思います。

(参加者)

八郷地区の大規模な統合小学校については、相当の時間を要すると思う。ある程度具体的な方向性を打ち出して説明していくことで、進んでいくのではないかと。

(参加者)

学校現場の職員の立場から、率直な意見を申し上げます。柿岡小は校舎は古いですが、地域のみなさまに愛され、大事に大事に使ってきたと感じています。葦穂小学校と吉生小学校の児童を受け入れるにあたっては、皆が気持ち良く使っていけるように準備していくことが大事かと思えます。統合に向けた動きを今後どんどん発信していくことで、地域のみなさまも興味を持って、協力していただけるのではと感じています。

(事務局)

統合に際し、施設の改修に関しては今後色々と検討してまいりたいと考えております。よろしく申し上げます。

(参加者)

八郷地区は2回に分けての統合という認識で良いか。

(事務局)

令和6年の4月を目標に、八郷地区の2つの枠組みについて統合を進めていきたいと考えております。最終的には園部小と東成井小を除いた8つの小学校が1つになるといった計画がございます。

(参加者)

統合によって学校が1つなくなると、予算はいくらぐらい浮くのか。

(事務局)

本日、具体的な数字は持ち合わせておりませんが、修繕費、水道光熱費や人件費といった部分が掛からなくなるといった考え方になろうかと思えます。

(参加者)

時間は掛かっても良いので八郷地区でひとつの学校をといた声も聞くが。

(事務局)

土地の買収、選定、校舎の建設などを含め、説明会なども含めると10年近い年数が見込まれます。その期間も葦穂小学校と吉生小学校は複式学級を抱えており、計画では第1段階として複式学級を抱える学校を優先的に統合再編し、学習環境の改善を図っていくといった考え方です。

(参加者)

柿岡小はこれからも地域の方に愛され、大事に使っていくことと思われるが、予算などはどれほど見込んでいるのか。

(事務局)

今の段階では、どのような工事や修繕、備品の設置が必要となってくるかなど検討している段階です。具体的な数字までは持ち合わせておりません。

(参加者)

これまで地域の方々の意見も聞いてきた中で、一回で大規模な統合と段階を踏んだ統合のどちらが良いのか。執行部ではどのように考えをお持ちか。教育部長の考えを伺いたい。

(教育部長)

基本的な考えとして、早急に複式学級をなくしていきたい。そのうえで、小学校においては、クラス替えが可能な2クラス以上であれば尚良いということで、審議会を経て計画が立てられております。

最初から大規模な統合をというご意見に関しては、相当の時間を要すると先ほどご説明させていただきました。その間も続いていく複式学級に手を付けないこととなります。まずは第1段階で複式学級の解消を図り、第2段階でクラス替えが可能な規模の統合小学校をつくっていきたいと思っていますので、ご理解いただきたいと思えます。

(参加者)

柿岡小は施設の老朽化が進んでいる。子どもたちの学習環境がきちんと確保されるのか

不安である。どのくらいまで施設の改修は見込まれるのか。その点について教育部長に伺いたい。

(教育部長)

地域の方や保護者の方のご協力もいただき、施設の維持をしていると先ほどもお伺いしました。個別施設計画の中でも示しておりますが、例えば吉生小と比べると劣化状況としても良い数字が出ております。柿岡小のバスの回転場整備など、ある程度の経費は掛かります。第2段階の統合を控えるうえでは二重投資にはなりますが、最初に複式学級の解消を図るために、柿岡小に葦穂小と吉生小を統合していくという基本的な考え方に基づいておこなっていき、統合に向けてある程度の修繕費は出していかなければならないと考えます。

(参加者)

公共施設等総合管理計画の資料などもあるが、谷島市長は統合についてどのようにお考えなのか。

(教育部長)

途中経過となりますが、この計画が100%決定事項という訳ではございません。地域の方々や保護者の方々のご意見も取り入れ、統合検討委員会で最終的な決定をしていただくこととなり、その点について谷島市長もご理解いただけていると考えます。

(教育長)

複式学級の解消を第一に進めているところですが、小人数ならではの良いところもございます。ただ、学級の人数があまりにも少ない場合、グループ分けや協同的な学びにおいて取り組むべき課題において、制約が生じる場合が多々ございます。これからの時代に求められる、教育活動を充実させることが困難になるような課題を出来るだけ早期に解決していくこと。一方向、一斉型の授業だけではなく、子どもたちが自ら課題を発見し、主体的に学び合う活動をしていくことが大切であろうと考えます。一定規模の学級推移の中で日常的に継続的に学習していける環境を確保したいといった考えで、答申にもあった複式学級の解消を目指していったということになります。

本日は基本計画等の説明をさせていただきました。お越しいただいた皆さまから貴重なご意見をいただけたこと、心より感謝申し上げます。

新しい学校づくりの議論には一定の期間を要するものとなります。継続的な議論を積み重ねて行きながら、学校・保護者・地域・行政で合意形成を図っていくことが大切だと感じております。

魅力ある学校づくりにおいて、学校再編によって生じる課題もございます。意見交換、議論を重ねながら、子どもたちにとって統合して良かったと思えるような学校づくりを進めていくことが大切だと思います。